

児童の学び方のスキルを育成するための教師の手立て・具体例集

本渡南小学校の先生方が取り組んできた実践の中で効果的であった手立てを集めてみました。
 今後も授業改善に努めながら、学校全体での共通実践につなげ、研究を進めていく予定です。

1 「学習の見通し」のスキル

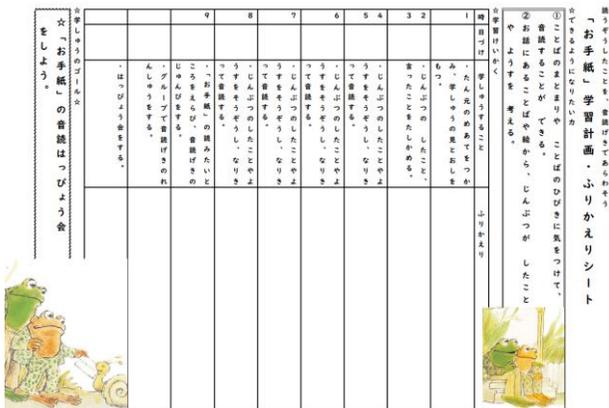
低：慣れる・一緒に決める

中：自己決定

高：自己調整

手立て □1-(1) 単元のゴール・身につけたい力を明確に可視化して児童と共有する。

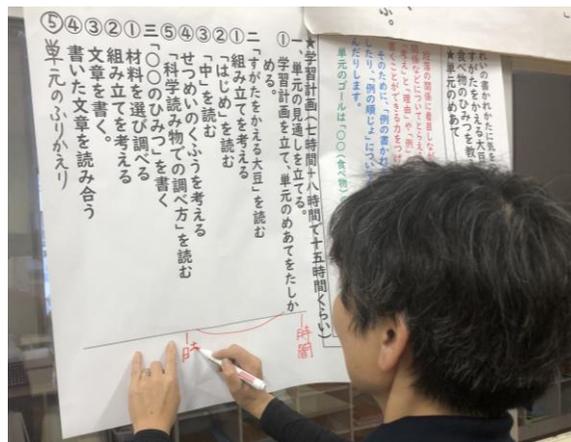
□ 単元計画や単元のゴールを教室に掲示したり教科書で確認したりする。



☺「単元のゴールを一緒に確認しましょう。」

□ 単元計画や単元のゴールを教室掲示やクラウド上で示して児童と話し合いながら単元計画を立てる。

(クラウド上…Google クラウドを主に使用)



☺「何時間くらいで活動ができそうですか。」

☺「学習の流れは、この順番でいいですか。」

□ 単元計画や単元のゴールをクラウド上で示す。
 (クラウド上…Google クラウドを主に使用)

単元目標：日本の工業生産を発展させるための「工業生産レベルアップ攻略ブック」を作ろう！

パフォーマンス課題		重要キーワード		
日本の工業生産と貿易・運輸について学習してきました。日本は海外とのつながりによって、工業生産を進めてきました。会社の社長であるあなたは、「工業生産レベルアップ攻略ブック」を作ることになりました。社長、これからのように工業生産を進めていきますか？	【多角的に考える】	いくつかの立場や意見をもちに考える		
	広がり	どのあたりに？なぜその地域に？		
	課題と強み	どんな強みを強化する？どんな課題がある？		
	事例（資料）と解釈（自分の考え）	分かることは？考えられることは？		
ルーブリック（評価基準）				
	S	A	B	C
攻略ブックについて	Aを満たし、複数の見方・考え方を示している。	Bを満たし、自分の考えを友だちに説明したり、話し合ったりしている。	「日本の工業の特色とこれからの取組」について、根拠となる資料を挙げながらまとめている。	Bを満たしていない

☺「単元のゴールや身に付けたい力をいつでも自分で確認しながら学習しましょう。」

※パフォーマンス課題とは・・・単元を通して考えていく、実生活に近い内容を含んだ課題。

※ルーブリックとは・・・評価を表として示し、児童と教師が共有するもの。(高学年のみ活用)

- ☆ スプレッドシート…単元の学習課題に対する考えの変容、振り返り等に活用させる。
- ☆ スライド…ポートフォリオ形式で児童に配布し、一時間ごとの記録(ノートの代わり)に活用させる。
- ☆ ジャムボード…単元導入時、個人用を白紙で共有しておき、紙のノートの代わりとして活用させる。

□1-(2) 学習の流れ【課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→ふりかえり】を示す。

□ 学習の流れを児童にわかる言葉で示す。
例：かだいをたてる→じょうほうをみつめる
→せいりする→まとめる・つたえる

□ 学習の流れを黒板に示し、児童にわかる言葉で言い変える。
例：課題を立てる→情報を集める→整理する
→まとめる・伝える
※一人学び、自力でがんばる時間 等

□ 学習流れと学習の方法を黒板やクラウド上に示す。

2 「めあて（課題）設定」のスキル

低：慣れる・一緒に決める

中：自己決定

高：自己調整

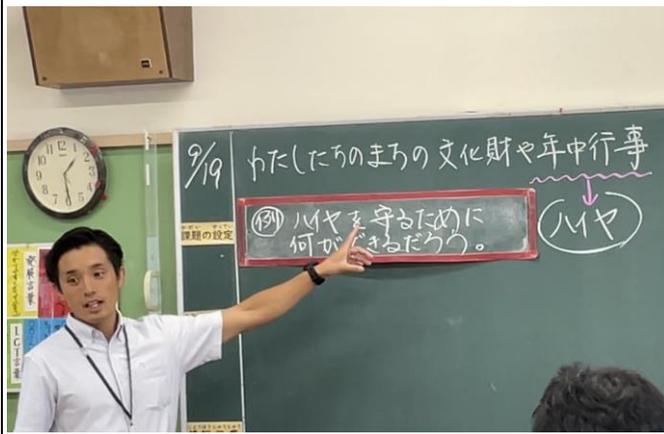
手立
て

□2-(1) 児童の思考を促す導入を工夫する。(例：間違いを示す・一部を隠す・比較・選択肢・制限・既習事項)

□ 自分たちの通学路の地図を見せ、通学路にどんなお店や施設があるのかを探す導入。
【生活】



□ 自分たちの身近な生活体験(ハイヤ踊り)を使った導入。【社会】

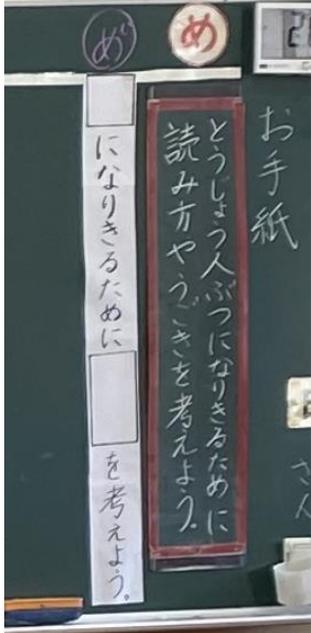


□ Formsを使った学級の実態アンケートによる導入。【道徳】

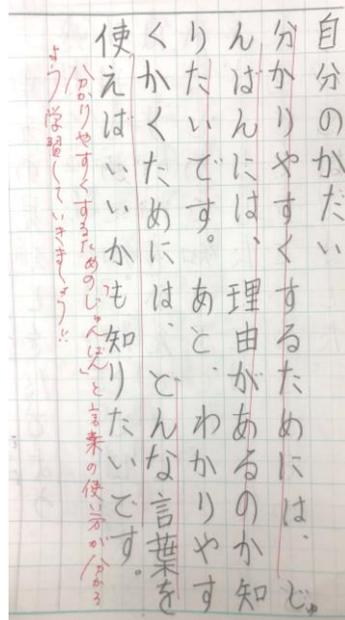


□2-(2) 自分の課題を立てる場を設定する。

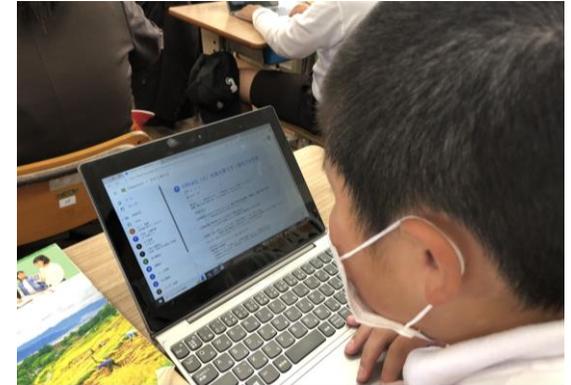
- 一部を()にして、課題を示す。
- ペアや小人数のグループで一つの課題を立てる場を設定する。【国語】



- 課題を選べるように**選択肢**で示す。
- 全体の課題を提示し、その後『**自分の課題**』を立てる場を設定する。【国語】



- 友達の課題を**参照**しながら**個人の課題**を立て、蓄積していけるようスプレッドシートや発表ノート、チャットを準備する。
【社会】



- ☺「友達の課題を参考にしていいですよ。」
- ☺「キーワード(**見方・考え方**)を意識しながら学習を進めましょう。」

□2-(3) 課題の**立て方**を**評価、確認、振り返る**場面を設定する。

- 手本となる課題を取り上げて紹介する。
- 児童が立てた課題を褒める言葉かけをしたりアドバイスをしたりする。

- 全体の課題と個人の課題を比較する。
- 本時のキーワードを確認し、それを使った課題を立てるよう伝える。
- 児童が立てた課題にコメントをする。

- ①学習内容、②学び方の視点で個別に言葉かけやクラウド上で評価のコメントを行う。

3 「学習の進め方」のスキル

低：慣れる・一緒に決める

中：自己決定

高：自己調整

手立
て
□3-(1) 児童の**興味・関心**に合わせて課題へ迫るための場を設定する。

※現在、模索中です。

※現在、模索中です。

※現在、模索中です。

□3-(2) 個や協働の**学習形態**を設定する。

□ 一人学び・ペア学習・グループ学習など**様々な学習形態を経験する場**を設定する。



□ 学びの選択を示し、**学習形態を選ぶ活動の場**を設定する。

□ 最初は、“だれと”については、一人で考える or 二人で考えるの**二択から始める**ようにする。

□ 慣れてきたら、**選択肢を増やして**いく。

□ 3年生は学びの選択①だれとのところのみを行う。

学びの選択	
① だれと	例 1人 2人 班1人 自由に
② どうやって	教科書 ノート ジャムボード みんなに聞く
③ どのくらい	5分(1人) →10分(ペア)

□ 個と協働を**選択するような活動の場**を設定する。

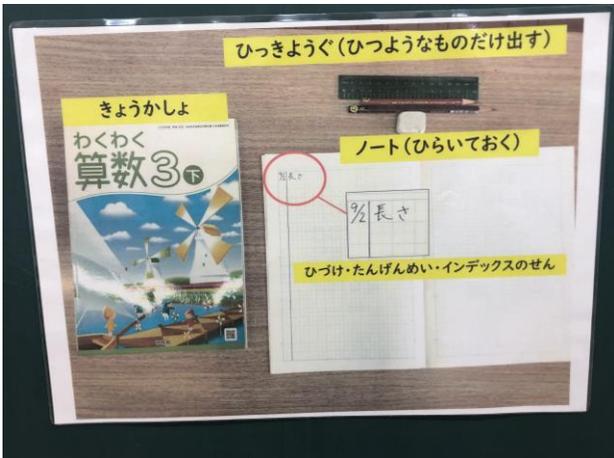




- ☺「自分の課題を解決するために一緒に学びたい友達のところへ行ってもいいですよ。」
- ☺「同じ視点/違う視点の友達のところへ行ってみると考えが深まりそうですね。」
- ☺「今、〇〇さんと話している目的は何ですか。」

□3-(3) 学習用具の用意の仕方・思考ツールを提示し、児童と共有する。(ツールの選択肢)

- 学習で使うものを机の上に**自分で準備できる**ような視覚支援を行う。



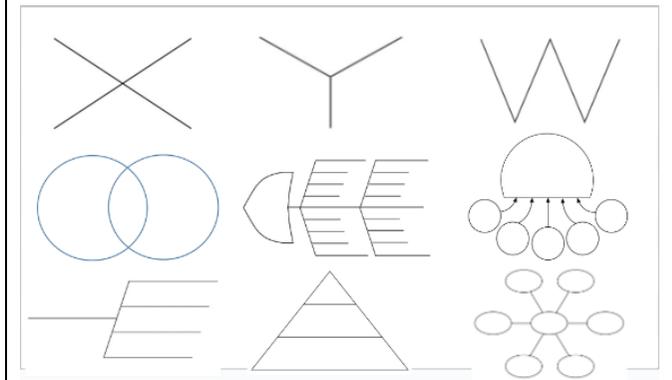
- 学習で使うものを机の上に**自分で準備できる**ような視覚支援を行うとともに、タブレットを**いつでも使える**ようにしておく。

- 思考ツールを提示する。
※順序、比較、分類、関連付け、理由付け、具体化



- 学習で使えそうなツール(教科書・ノート・タブレット)を**あらかじめ準備する環境**を整える。

- 思考ツールを提示する。
※順序、比較、分類、関連付け、理由付け、具体化、抽象化、構造化、多面的・多角的
(↓スライド上で参照できます。)

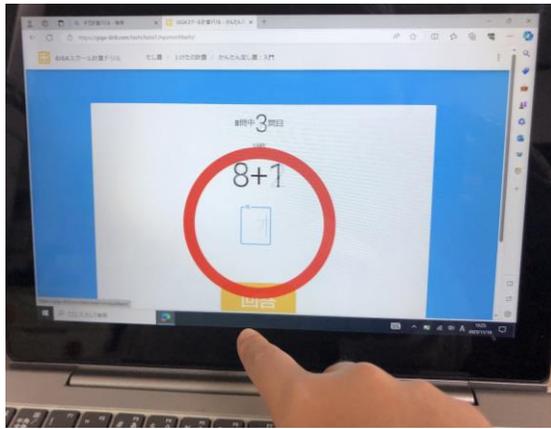


□3-(4) **習熟度**に合わせて、ヒントカードやレベルアップの課題を用意する。

□ 個別の課題を配布する。【算数】



□ 課題を早く終えた児童が繰り返し解くことができる GIGA 計算ドリルを活用する。【算数】



□ 練習問題の内容を選ぶ場を設定する。【算数】



【体育】



□ 児童の学習の記録が端末上に残っているので、授業内外で児童の学習状況を丁寧に把握する。

□ 把握した学習状況をもとに、個に応じた発問や学び方の選択肢、個別課題、教室環境などの準備をする。
→習熟度を自分ではかることが難しい児童は、教師があらかじめ準備しておいた資料や問題の中から繰り返し自己決定させる。

【国語】



□3-(5) 時間を意識することができるような場の設定・言葉かけを行う。

□ 時間を先生と**一緒に決める**。

☺「〇分でしましょう。」

☺「あと〇分くらい、いりますか。」

□ 時間を**決めたり選んだりする**ような場を設定する。

☺「何分必要ですか。」

☺「〇分で、できそうですか。」

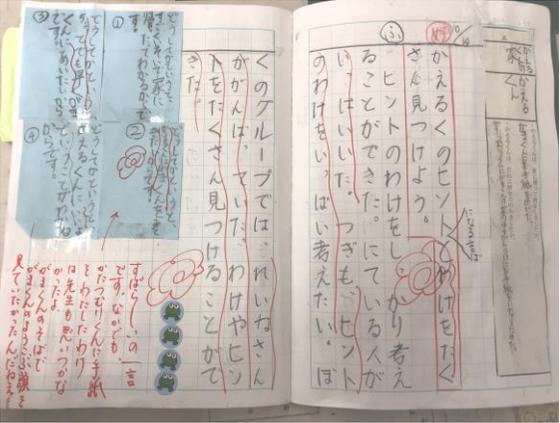
□ 活動の**区切りの目安**を示す。

<input type="checkbox"/> 時間係をつくる。 <input type="checkbox"/> 一定の時間内で学習できるような力をつけるためにタイマーを使う。	<input type="checkbox"/> 時間係をつくる。 <input type="checkbox"/> 一定の時間内で学習できる力をつけるとともに、早く終わった場合、レベルアップタイムにする・お助けタイムにするなどのルールを決める。	<input type="checkbox"/> 活動の区切りの目安を伝える時間係(児童)を決めておく。 ☺「あと〇分です。そろそろ～に移りましょう。」
---	--	---

4 「振り返り」のスキル

低：慣れる・一緒に決める	中：自己決定	高：自己調整
--------------	--------	--------

□4-(1) 学習内容+学び方の視点で振り返らせる。

<p>手立て</p> <input type="checkbox"/> 単元を通して 自己の変容を確認 することができるよう、ノートやワークシートを活用する。 	<input type="checkbox"/> 単元を通して 自己の変容を確認 することができるよう、ノートやワークシート、スプレッドシートを活用する。	<input type="checkbox"/> 前単元からの 自己の変容を確認 したり、友達の振り返りの仕方を参照したりできるように、スプレッドシートを活用する。 (↓Google クラスルーム上で示す。) ~振り返りの視点~ ①分かったこと・できたこと ②分からなかったこと・できなかったこと ③友達から学んだこと ④学び方(一人学び、学び合い、ツールなど) ⑤次に生かすこと(学習内容と学び方の視点)
---	--	---

ふり返り

分かったことできたこと
 分からなかったこと
 できなかったこと
 友だちから学んだこと
 学び方(一人学び、学び合い)



□4-(2) 家庭学習の手引きを活用し、家庭学習につなげるような場の設定・言葉かけを行う。

<input type="checkbox"/> 学習した内容を家庭で復習できるよう、タブレット上で問題の確認や〇つけ、間違い直し等を実施している。 <input type="checkbox"/> 自分で選んで学べる よう、学びポケットのチャンネルに宿題アプリを送る。	<input type="checkbox"/> 家庭学習でも「 自己決定 」ができるよう、“3日間計画学習(ファイルにプリントを蓄積していく)”を実施する。 ☺「3日間の宿題です。木曜日の提出日までに 計画的 に家庭学習を進めましょう。」	<input type="checkbox"/> 『け(計画)→テ(テスト)→ぶ(分析)→れ(練習)』の流れで自学を行い、学びの自覚を促し、自学でも内容や取り組み方を 自己調整 できるようにする。
---	---	---

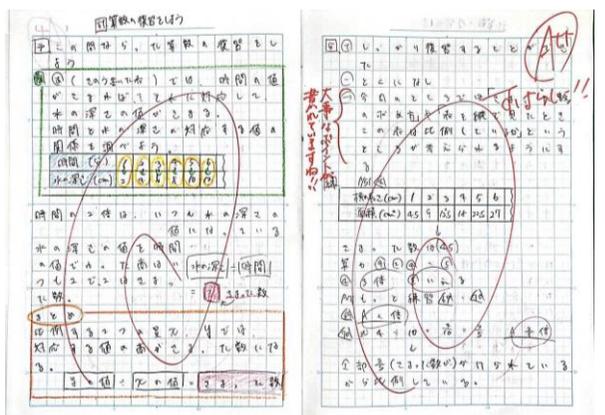


☺11/6(月)の宿題

- ・プリント5枚
- ・漢字練習1ページ
- ・自学1ページ
- ・タイピング練習
- ・音読(音声で提出)
- ・タブレットの宿題

✳提出日は、11/9日(木)

☺「3日間で計画的に取り組みましょう。」



5 「コミュニケーション」のスキル

低：慣れる・一緒に決める

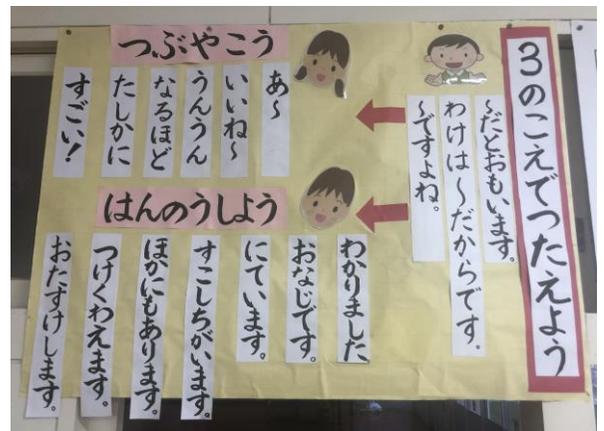
中：自己決定

高：自己調整

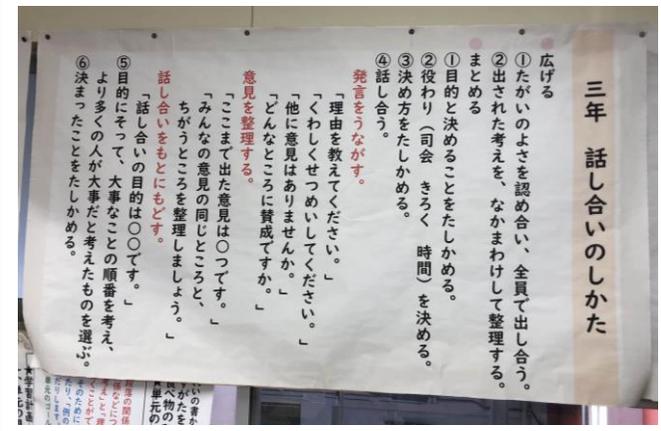
手立
て

□5-(1)「相手を意識した聞き方・話し方」の型を示す。

- 『こえのもののさし』を示す。
- 『はんのうのしかた』を示す。
- 理由の言い方や話型を示す。



- 『こえのもののさし』を示す。
- 『話し合いのしかた』を示す。



- 『話し合いのしかた』をスライド上でも、参照できるように示す。
- だれと・いつ・どのくらい話し合うのかを考えさせる場を設定する。

学習のポイントその③「アウトプット」※イメージはポケモン

- ① **違う意見の人とアウトプット**
 たくさんのトレーナーと戦ったら(アウトプット)経験値がもらえる!
 →話し合えば話し合った分だけ賢くなる
 →自分が立てた仮説を多面的に見ることができる
- ② **質問をする**
 それぞれのタウンの人々に話しかけることで、技マシンなどをもらえる!
 →「ってどういうこと?」(キーワードや言葉に意味の確認)
 「～と比べたら…だけど、～と比べたら…じゃない?」(比較の視点)
 「確かに～だけど、～とも言えないかな?」(多面的に見ているかの確認)
- ③ **仮説の証明する→相手を納得させる**
 戦わせるポケモンや技、タイミングなどを選んで戦わない!と負ける!
 →根拠となる資料・構造化したジャムの提示・具体的な言葉

<p>☺「ノート・シート・タブレット画面を相手に見せながら発表しましょう。」</p>	<p>☺「ノート・付箋・シート・タブレット画面の大事なところを相手に指差しながら説明しましょう。」</p>	
<p>□5-(2) 個と個をつなぐような教師の指示・発問をする。</p>		
<p>□ 子どもたちの言いたいことや考えを増やしていく・はっきりさせていくという意識をもち、教師は「いつ・どこで・だれが・何を・どのように・なぜ・言いかえると」などの言葉を使って切り返したり全体に戻したりする。</p>		
<p>☺「～とは、言いかえると？」</p> <p>☺「だれか、もっと詳しく教えてください。」</p> <p>☺「〇〇さんの言いたかったことをだれか説明してください。」</p> <p>☺「みんなが言いたかったことを、みんなで言葉を増やしながらか成させることができましたね。」</p>	<p>☺「考えが同じ人のところへ行きましょう。」</p> <p>☺「考えが違う人のところへ行きましょう。」</p> <p>☺「もう一度、あなたの言葉で説明してください。」</p> <p>☺「〇〇さんの言いたいことの続きを、だれか話してください。」</p>	<p>☺「〇〇さんが～と考えたのはなぜだろうね。」</p> <p>☺「〇〇さんの考えはどういう意味かな。」</p> <p>☺「〇〇さんが困っていることは何だろう。」</p> <p>☺「〇〇さんの考えを参考にしてみましょう。」</p> <p>☺「〇〇さんが同じ視点/違う視点で考えていたよ。聞いてきてごらん。」</p>

☺取り組んできた実践の中で効果的であった手立てを集めてみました。模索中のものもありますので、今後も授業改善に努めながら、学校全体での共通実践につなげ、児童の学び方のスキルを系統的に育成できるよう研究を進めていこうと思います。